

出羽三山神社合祭殿内板戸彩色保存処置

受託研究報告 第 29 号

茂 木 曙

1. はじめに

出羽三山は、山形県東田川郡の月山・羽黒山・湯殿山の総称で、それぞれの山頂に神社が祀られている。月山及び湯殿山は、冬期間参拝かできないので、羽黒山頂の出羽神社に三神を合祭し三神合祭殿と称している。この社殿は、文政元年(1818)の再建で、高さ28 m、桁行24.2 m、梁間17 m あり、屋根は2.1 m の厚みをもつ萱葺きとなっている。この合祭殿内の左右両側に、間仕切りとしての板戸が嵌込まれている。それは引戸であり畳の間を挟んで片側に前後して2枚1組が嵌められているので総数8枚である。絵は見付の片面だけで、畳の間裏側は前列の4枚が舞良戸、後列の4枚は杉板のままとなっている。板戸1枚の大きさは、幅が約130 cm、高さ約330 cm である。彩色部分は杉板2枚或いは3枚を接合させてあり、板の厚さは約2 cm である。前列の4枚は草木類に鶴をあしらい、後列の4枚は草木類に鶏が描かれている。作者は近郷出身の画家、斎藤墨湖である。(明治8年に103才で没している)



図-1 合 祭 殿 全 景

2. 処置前の状況

板戸彩色の損傷程度は、各個に非常な相違がある。それは板戸が大きくて重いため、戸車が破損し動かし難く、出入りが便利のように開放したまま使用していた期間が相当長期にわたっていたためのものである。2枚宛重なり合っていた戸を開けひろげて見ると、表側見付になっていた部分の絵と、下になり隠れていた部分の鮮明さ及び剥落状態に大きな違いがある。加えて全体に雨滴ような汚れが付着している。以前に社殿が相当に破損し雨漏りがあったと聞く。板戸を展開していた状態で降りかかっていたと思われるし、このしみは、単なる雨じみでなく、屋根からと思われる泥土が付着しているものである。

彩色は、下地を置かずに木の素地に直接描かれている。殆んどが平彩色で顔料層がうすい。少々厚塗りになっているのは、鶴や鶉のからだの部分や、菊花、芙蓉などの花卉の胡粉塗りのところである。彩画の損傷程度は、顔料の層状剥離、剥落などは、主に胡粉層におこっており、他の部分は雨滴などにうたれたことも原因してか、粉状になっているものも見られる。それは主に白緑や緑青の部分である。全体としては下地塗りがないので、節を丹念にくりぬき、埋木をした痕跡が随所に見られ、また彩画面や、木の素地には傷あとがかなり散見する。芭蕉の葉を描いた緑青が、杉板の接目を境にかなりの面積が変色しており、原因は定かではない。おそらく板に含まれている天然の樹脂によるものと思われる。

3. 保存処置

ほとんどの板戸に見受けられる雨滴ようなしみのうち、泥土の付着物を、やや硬度の高い毛筆（油絵用）を用いて丹念にとり除き、更に顔料のない部分について刷毛で水洗いをして拭い去った。それによって付着物はほとんど完全に除去できたが、永い間にその部分の木の素地が、変色していて、痕跡が斑点となって残った。彩色の上の泥土は顔料に結合して顔料からとりわけるのが仲々にむづかしい。先ず筆先や木の筥の先端でかるくとり去ったあと、彩色の剥落どめの目的で、PVA 2% 溶液を十分に含浸させて、異物がある程度軟化したところで筆先で拭うようにして清掃した。胡粉層の浮上がりに対しては、PVA 4% 溶液を注射器または筆先によって木の素地との空隙に注入し濾紙を当てて押さえて固定し、処置を終わった。



図-2 草木と鶏の図 (処置後)



図-3 草木と鶴の図 (処置後)

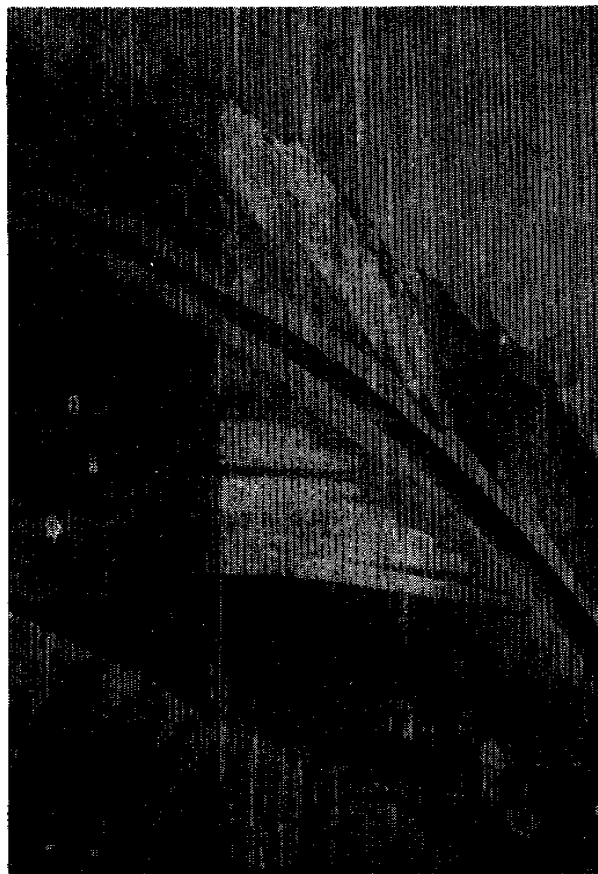


図-4 杉板のはぎ目を境いに変色した芭蕉の葉の図 (処置前)



図-5 鶴の図の剥落状態の一例 (処置後)

Résumé

Akira MOGI: Conservatiue Treatment of Paitings on Wooden Doors at the Combined Sanctuary of Dewa Sanzan Shrine

The combined sanctuary of Dewa Sanzan Shrine in Yamagata prefecture was rebuilt in the first year of Bunsei (1818). The building has eight wooden doors in the interior, each of them being 130 cm in width and 330 cm in height. Four of them have pictures of plants, cocks and hens painted thereon respectively, and the other four pictures of plants and cranes. Those pictures are painted directly on the surface of cedar plates without any under coat applied. The pigment layers applied are generally thin, except that some parts of the petals, the bodies of the cranes and of the hens and cocks are painted a little thicker with chalklike substance.

As a result, relatively few areas showed peeling but many plainly painted areas aged to show themselves a powdery appearance. It is believed that there were some pretty heavy leaks in the roof in some late period and then the falling mud passed through the thatched roof to stain the surface of the pictures and acclerated the aging, desquamation and peeling off of the pigments.

After such observations, the following treatments have now been conducted: For the areas where the painting layer desquamated an 4% aqueous solution of P. V. A. has been injected between the wooden substrate and the layer, folowed by pressing to fix them together, and the rest was impregnated with a 2% aqueous solution of P. V. A. to prevent further peeling off. Mud deposits from the roof leakings have possibly been removed but the spots which had carried the deposits have remained as discolored stains because they were left there over a long period of time.